
鉄道マン

馬乃糞踏佐衛門

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉄道マン

【ZPDF】

Z7941A

【作者名】

馬乃糞踏佐衛門

【あらすじ】

鉄道マンは僕に戦いを挑む。しかし僕は鉄道マンに勝つことができない。このままこんなことが続けば体が持たない。そんなとき鉄道マンは真剣勝負を持ち込んだ。

鉄道マンとの馴れ初めについて話すことはあまり無い。ただぼくが彼の敵だと彼自身が認識したのだ。

鉄道マンはレゲージで身を堅め、手にはキハ58系を持ち、僕に闘いを挑んでくる。上はちゃんとした鉄道着なのだけどなぜか下は500系のぞみを穿いている。顔は運転席の奥にあるので僕は見たことがない。いつか見るときが来ると思ったのでその時に見させて貰おうと思つていてる。

今日も鉄道マンとの闘いがあった。暴力やその類が僕はあまり好きに成れない。鉄道を小学生から去年の九月、つまり高1の時まで続けたが最後まで鉄道の激しさというのか野蛮さとこうのうところが好きになれなかつた。

だから今日も僕は鉄道マンにボロ負けした。

「やつやつやつ。じうだ。おれは強いだらう。鉄道マンは強いんだ、やつやつ」

鉄道マンは僕を見下ろして言つた。

「なんで僕を、僕は何もしてこないのに」

満身創痍。

制服は土が付いてべたべた、キハ52で思い切り乗り越しや車内アナウンスをされたので体中痣が出来ていいだろう。

鉄道マンは咲笑する

「やつやつやつ」

そしてこう続けた。

「当たり前だろう。お前とおれは敵同士なんだ。敵同士でこいつは

闘つものだ

「どうして僕がこいつの敵なんだろ。解らない。僕はひ弱な鉄つち
やんでこんな強い正体不明に戦いを挑まれるほど強くない。
なのに放課後になるとこいつが現れて僕をめちゃめちゃにしてしま
う。母さんにはイジメを受けてるの？」と問われたりした。母さん
の問いは間違つていない。でも僕は何て言えばいいのだろう。線路
を身につけた変人にぶちのめされてるんだと言えばいいのだろうか？

言えるわけが無い。しかしこのままでは僕の身が持たない。何とか
してこの変人を説得せねば。

「敵じゃないよ。僕はもつこんなにもぼろ負けしているじゃないか。
もういいだろ。」

体を地面からもたげて鉄道マンに言つた。しかし

「だめだ。お前はまだ本気を出してないだろ。おれの敵なのにこん
なに弱いはずがないんだ。明日は本気を出してくれよな。真剣勝負
だからな」

と鉄道マンは言つとまるで忍者が走るよつて軽やかに去つていった。
僕は地面に顔を押しつけて呻いた。

真剣勝負、というのは鉄道マンにとつて鉄道のり知識で戦うとい
うことだつたらしい。つまり、日本を走る全車両を持ってということ。

「ほりも前のぶん」

放り投げられた鉄道大全集が、ゴウッと鳴つて僕の前に落ちた。僕は震えていた。

なぜ。真剣勝負って生死をかけたデスマッチなの？

鉄道大全集を捨うことが出来ない。鉄道マンは早々に本からペーパーを抜いて食している。

お前早くページを食べろよ。始めるぞ！」

そんなこと出来るわけがない、なんでこんなことしねやいけない

「うん！」とトモダチ。

「やつやつ。じやあ素でおれに勝とひって言うのか。自信があるん

たなあお前 そふにがとなら ー ー ー ー

「いややうこつ意味じやな、」

「 - - - 死合始め！ ! ! 」

う間に僕を轢ける間合いで、
鉄道マンがこちらに駆け出しあがた。どんどん迫ってきてあつとい

「...ひせひせ」

「ゲージが僕に向かつて振りおろされた。

「がああああああ

僕は叫んでいた。鉄道マンの「ゲージが僕の腹部に入り込んでいた。それは内臓を貫き背中にまで突き出したものだった。

「あれ？」

「があ、あ、鉄道マンう、『ゲージで、勝つ、つて』

僕は倒れた。

鉄道マンは「ゲージを引き抜いた。ちゃんと『ゲージには血がついていた。

鉄道マンは帽子を取つて何線だか確かめようとしたけれど恐くなつてやめた。剣道マンは僕をそのままにして電車に乗り帰つた。

その後新聞やテレビを見ても鉄道マンの殺人を扱つたものはなかつた。

「さうさうさうさう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7941a/>

鉄道マン

2010年10月20日19時35分発行